

## 「第2分科会の論点整理」に対するコメント

2005.1.31

寺島実郎

所用により今回の委員会に出席することができませんので、簡単ではありますが、書面にてコメントをお送りします。

「国の根幹を支える重要インフラのあり方」との視点からアプローチし、新しい体系を構築しようとする本論点整理は、全般的に精力的な挑戦であり、方向性について賛意を表します。しかしながら、より実効性の高い成果とするため、今後の第2分科会での検討にあたり、以下の2つの視点を取り入れていただくことを提案します。

## 1. 根本的な役割分担論の考察

今後、具体的対策の検討に入ると、積み上げの議論が先行することも予想されますが、そもそも「重要インフラの情報セキュリティ対策」において、個人の責任、企業の責任、国の責任のどこで適正に線引きを行うべきか、という根本的なところでの役割分担論についての考察が必要であると考えます。

## 2. “象徴的ケーススタディ”に基づいた骨太の対策の提示

本委員会としての重要な役割の一つに、国全体として情報セキュリティ問題への意識を高めるといふ点があるはずですが、したがって、「本格的なサイバー攻撃を受けた場合」や「大規模地震が起こった場合」など、いくつかの、誰もが分かりやすい“象徴的ケーススタディ”を基軸として、我が国の重要インフラはいかなる状況になり、どのような対策が必要なのかということを示すアプローチを取ることが必要だと考えます。こうした検討には、“Symbolic Management”の視点も不可欠です。

また、個別論に落ちたところで、例えば、「どのインフラを対象とするか」(3.(3))といった議論についても、いくつかの“象徴的ケーススタディ”に基づいた川上から川下まで一本の線で結んだ検討を行えば、その中で必要な対象インフラというものは自然と洗い出せるはずですが。